

令和 2 年 7 月 15 日現在

機関番号：31302

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2017～2019

課題番号：17H02388

研究課題名(和文) 東北太平洋沿岸地域の歴史学・考古学的総合研究

研究課題名(英文) Comprehensive study of history and archeology on the Pacific coast of the Tohoku region

研究代表者

七海 雅人(NANAMI, Masato)

東北学院大学・文学部・教授

研究者番号：00405888

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 12,400,000円

研究成果の概要(和文)：本共同研究では、東北地方三陸沿岸部及び周辺地域に関するこれまでの歴史学・考古学研究の蓄積を整理し、古代における集落や貝塚・中世における城館に関するデータベースの作成を行った。また、東日本大震災津波被災地における歴史資料のレスキュー活動を通して、古代における豪族の動向、中世の板碑、近世の古文書の調査・研究を進めた。以上の成果を総合的に考察し、また歴史的景観の復元などを行うことにより、被災地域の復興と創生において、文化・学術研究の面から寄与することを試みた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

東日本大震災における巨大津波により、東北地方太平洋沿岸部では、多くの歴史資料が失われた。そうした被災地域において、文化・学術の面から復興に寄与することを目的として本共同研究は組織され、当該地域に関する歴史学・考古学の研究成果の整理をふまえて、古代集落・貝塚、中世城館に関するデータベースの作成を行った。また、被災した中世の板碑群、近世の石碑、近世の古文書のレスキュー活動・調査などを通して、新たな史実の発掘と既往の成果の深化・精緻化を進めた。以上の基礎的なデータの整備・分析と、その成果に基づく歴史的景観の復元については、年度末ごとに市民報告会を実施し、地域への研究成果の還元を積極的に行った。

研究成果の概要(英文)：In this study, we made a database of ancient settlements, shell mounds, and medieval castles by summarizing the results of historical and archeological studies on the Sanriku coastal area in the Tohoku region and its surrounding areas. In addition, we carried out rescue activities on historical materials in the tsunami-affected areas of the Great East Japan Earthquake, and investigated ancient tribe, stone monuments of the middle ages, and ancient documents of the early modern times. By comprehensively considering the above research results and reconstructing the historic landscape, we were able to contribute to the rehabilitation of the tsunami-affected areas in terms of cultural and academic research.

研究分野：日本中世史

キーワード：東北太平洋沿岸地域 古代貝塚 古代集落 板碑 中世城館 資料レスキュー 震災復興

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

(1) 東日本大震災で被災した東北地方太平洋沿岸部は、海・陸域の複合的生態系と地理的特性を基盤として、縄文時代から近・現代にいたるまで、独自の地域文化を生み出し育んできた。このような地域的特色に関する歴史学・考古学的研究については、これまで一定の蓄積があるものの、いまだ個別研究の集合という状況にとどまっている。そこで本共同研究では、文化・学術研究の面から地域の復興および創生に資することを目的として、上記地域をめぐる既往の歴史学・考古学研究の成果を再検討するとともに総合的な考察にも着手し、その新しい研究成果を地域に還元していくことを考えた。

(2) 本共同研究のメンバーは、2014～2016 年度科学研究費補助金基盤研究(B)「気仙地域の歴史・考古・民俗学的総合研究」(以下、「気仙科研」)を採択され、上記の課題に取り組んできた経緯があった。この「気仙科研」では、縄文時代の漁撈活動、弥生時代の遺跡の分布、古代の官衙・城柵の周辺における集落と生業、中世の城館群のあり方、近世気仙地域の歴史的特性などについて、個別的な考察を進めることができた。その研究過程の中で、さらに震災復興事業にとともに実施された東北地方太平洋沿岸部各地の縄文時代から近世にいたる埋蔵文化財調査の成果も取り込みつつ、より体系化・総合化を行う必要があること、またより広い地域にわたって基礎的なデータを集成し分析を進める必要があること、という新たな課題を持つにいたった。

(3) また、地域の側に目を転じると、被災地の復興という取り組みの中で、学術的研究に裏打ちされた歴史と文化の魅力の再発見に興味・関心が寄せられ、共に学び合い発信していこうという希求が醸成されていた。その機運を受けて「気仙科研」では、陸前高田市歴史文化研究会をはじめとする地域の方々の支援にもとづきながら、毎年度末に気仙地域の市民向け報告会を実施した。そこでは、多数の参加者を得ることができ、また歴史学・考古学に関する学術研究の学習の場について、さらなる継続を求める意見なども寄せられた。本共同研究のメンバーは、こうした地域の要望に応えるという学術的な責務を果たし、さらにはより広範な地域の方々の声にも応えていきたいと考えるにいたった。

2. 研究の目的

本共同研究は、歴史学・考古学研究の総合化による東日本大震災津波被災地における地域研究の実践と、学術の面から復興・地域創生を支援することを基本的な目的に掲げた。共同研究メンバーは、考古学・古代史・中世史・近世史の4分野に分かれて活動し、それぞれつぎのような個別的な目的を設定した。

(1) 【考古学分野】海産資源利用を主とする生業と、集落遺跡形成の時空的変動、地域間関係の推移を把握する。

(2) 【古代史分野】北海道・東北太平洋沿岸地域の集落分布・生業等のあり方、地勢から交流拠点の解明し、蝦夷社会時代、律令国家段階、安倍氏・奥州藤原氏(平泉藤原氏)段階の実像の追求と地域間交流の展開を考察する。

(3) 【中世史分野】海道地域、多賀国府圏、牡鹿～遠島～本吉の3地域について、中世資料データベースの作成と分析、歴史的景観の復元にに基づき、12世紀後半から16世紀に至る新たな歴史像を描き出す。

(4) 【近世史分野】気仙～三陸地域の古文書群について、古文書所在マップの作成、史料確認調査、史料撮影、歴史情報のデータベース化、史料の分析を行い、近世気仙郡の新たな歴史的事実を提示する。

3. 研究の方法

上記研究目的の設定にもとづき、各分野では具体的につぎのような研究方法を採用し、調査・分析活動を進めた。共同研究期間の各年度末には、各分野の成果を集成し、市民向け報告会を企画・実施した。

(1) 【考古学分野】縄文時代から中世までの東北太平洋沿岸地域の海産資源利用を主とする生業とその複合性に関する研究と、集落遺跡形成の時空的変動、地域間関係の推移の把握を行う。具体的には、つぎの3点のテーマについて調査・研究を進めた。東北・北海道太平洋沿岸地域の縄文時代～中世の海産資源利用資料・データの集成、古代・中世製鉄関係遺跡のデータの集成。東北・北海道太平洋沿岸地域の古代集落遺跡のデータの集成。東北太平洋沿岸地域の中世の城館・石造物・経塚などの遺跡のデータの集成。

(2) 【古代史分野】考古学分野が集成した「気仙科研」の成果、本共同研究における東北太平洋沿岸地域の集落分布、生業と交易などに関するデータについて歴史学的に検討を行い、日本列島各地との地域間交流と、東北地方におけるその交流拠点の実態解明に努める。具体的には、つぎの2点を課題とした。古代国家と海道・山道の蝦夷とされた勢力との抗争の分析などを通じて地域の特質を明らかにする。律令国家と当該地域社会との関係、安倍氏や奥州藤原氏と地域

社会との関係を明らかにする。

(3) 【中世史分野】12世紀後半から16世紀にいたる東北太平洋沿岸地域における政治的・経済的・宗教的拠点の分布・展開の様相と歴史的景観の復元、そこで暮らした人々のネットワークのあり様について、文献史料の蒐集・分析とフィールドワークを重ねることにより究明する。具体的には、海道地域の要衝・拠点(福島県・宮城県南部の沿岸部)・多賀国府・塩釜・松島の国府圏(宮城県名取市から松島町の沿岸部)・牡鹿・遠島・本吉地域の要衝・拠点(宮城県東松島市から気仙沼市の沿岸部)の3つの地域を取り上げ、隔地間交通や隣接地域・内陸部との関係、結節点の推移等について精緻な考察を行い、在来の人々と来訪した人々との交流・相剋の視点から、日本史における中世東北太平洋沿岸地域の意義について考察する。

(4) 【近世史分野】陸前高田市・大船渡市・住田町及び釜石市唐丹地区で構成される気仙郡地域における村役人層や地域有力者の史料群を中心として、海産・鉱山資源を背景とした諸産業の発達と、同地域を直轄地とした仙台藩政の中における気仙郡の位置づけについて分析する。同地域では東日本大震災の発生により多数の古文書が流失・被災したが、NPO法人宮城歴史資料保全ネットワークによる被災旧家の歴史資料レスキューが行われた結果、大量の未調査・未整理の古文書が発見されるにいたった。これらの震災後に発見された史料や、本共同研究における所在調査で新たに確認された史料を分析・研究することにより、気仙郡の新たな歴史を描いていく。

4. 研究成果

各分野では、年度ごとに研究集会・うち合わせなどを重ね、つぎのような研究成果を得ることができた。歴史学(古代～近世)・考古学の各分野において基礎的なデータを集成し、その内容を分析することにより、東日本大震災津波被災地において多様な史実の発見を行い、文化・学術研究の面から、当該地域における復興と地域創生の取り組みに貢献することができた。

(1) 【考古学分野】「古代集落データベース」の作成:7世紀前半から10世紀後葉までの竪穴住居跡の集成を行い、北海道域429棟・青森県太平洋沿岸域(三八・上北・下北)2,483棟、岩手県域7,100棟・宮城県域5,645棟・福島県域848棟の計16,505棟のデータ収集と分析を行った。これにより、つぎの点を確認することができた。a)北上盆地では、7世紀後葉と9世紀後葉に遺構数の急増が認められる。その分布状況を見ると、竪穴住居跡が集中する遺跡として把握される集落が、数km圏の範囲で密集して村落を形成し、そうした村落が5～10kmほどの範囲でまとまりをもち、そのまとまりごとに大型建物が伴う状況が確認できる。9世紀初頭に中央政府が当地域に郡を設置するが、建郡に伴う地域社会の組み換えなどの動向を把握することが可能である。b)青森県東部は、6世紀前半までは北海道系の続縄文社会で、北上盆地以南の古墳文化社会との交流がみられた。それが6世紀後葉以後、三八地区で在地色の強い新たな在地社会が形成され、その展開の上に7世紀後葉に竪穴住居数の急増と内陸部への遺跡の分布拡大が認められる。また、七戸川流域以南の集落が7～10世紀に継続的であるのに対し、以北は10世紀初頭から開始されることが見えてきた。下北地域では10世紀前半に竪穴が増加する傾向が認められ、古代集落形成の一つの画期をこの時期に求めることができる。c)北海道島では、6世紀末から7世紀にかけて土器様式が大きく転換して擦文式土器様式が成立すると歩調を合わせるように、竪穴住居が出現・普及する。それは定住的な集落社会の形成であり、12世紀まで主流となる。また、従来10世紀前葉の白頭山火山灰(B-Tm)降下以後に集落減とされてきたが、9世紀後半に急減している様相が明らかになった。土器様式や住居形態は東北北部との連動を示すが、集落の構成や出土遺物では差異が求められ、擦文文化というべき独自の社会を形成した。

弥生時代併行～中世併行期までの貝塚・製塩および漁撈活動関係遺物の集成と分析を行った。これにより、つぎの点を確認することができた。a)北海道の続縄文文化後期～擦文文化期の貝塚は僅少で洞穴遺跡などに特色があり、擦文文化ではサケの骨、オホーツク文化ではオットセイ骨の検出が顕著に見られた。イルカ種や地形、銚頭の形態から、北海道でのイルカ漁は、銚漁によるもので、追い込み漁は実施されなかった可能性が指摘できた。また、古代、中・近世で「商品」化されないために、儀礼的な取り扱いなどで、それ以前と比べ重視されなくなる状況も明らかになった。b)青森県では尻屋崎と夏泊半島に貝塚が集中し、陸奥湾や日本海側にはほとんど見られず、地域差が明らかになった。c)宮城県では古代貝塚は松島湾沿岸に集中し、製塩遺跡も多く、活動に拠点的と一時的な2類型があることがわかり、多賀城の維持運営とのかわりも見えてきた。d)その他にも、岩手県三陸沿岸部の弥生時代遺跡データを集成し、弥生時代中期中頃～後半は仙台湾沿岸との往来が顕著であるものの、後期後半～末になるとむしろ北方との関係が強まる傾向が認められた。

「中世城館データベース」の作成:青森県・宮城県・岩手県を中心に、南北朝時代から中近世移行期にいたるデータの収集を進めることができた。

(2) 【古代史分野】文献史料の再検討、津波被災地における埋蔵文化財の調査成果を参照することにより、つぎのような見解を得た。古代国家確立期の7世紀後半、唐・新羅との戦いに敗れ、8世紀に入り対外抗争から撤退したことにより、古代国家は、律令制度に基づいて中央集権的国家体制を整備し、列島内の東北地方の蝦夷「征討」事業を強力に推進する政策へ転じたとい

える。陸奥国北部の蝦夷対策として南部の石城・石背両国は718年建国されたが、短期間で陸奥国に併合された。さらに7世紀後半以降整備してきた東山道の陸路からの蝦夷「征討」事業は、坂東諸国および東北南部地域にとって人的にも物的にも過重な負担となった。そのような状況下において、東北太平洋沿岸地域にもたらした最も大きな影響は、771年、坂東の中核を担った武蔵国の所属を東山道から東海道へ改めた政策である。これにともない、蝦夷征討は陸路を東山道から東海道へ、そして海路の船団へと切り替えたと考えることができる。胆沢地方など内陸部への侵攻は北上川から兵士・物資の大量輸送に重点がおかれた。その結果、北上川河口を支配した牡鹿地方・道嶋氏の勢力がより一層増すこととなった。

749年、陸奥國小田郡で黄金が発見され、陸奥守・百済王敬福が大仏のための金900両を献上した。しかも陸奥国は小田郡産金献上以降、毎年、砂金350両を、三陸沿岸の昆布や北方世界のアシカの皮などとともに献上することを義務付けられた。陸奥国は、小田郡だけではなく、陸奥国内で産金地を新たに求め、陸奥国南端の白河郡の八溝山の金も当然貢進の対象地であり、さらに小田郡より北部地域の気仙郡もその一つであったと考えられる。奥州藤原氏の中尊寺金色堂に代表される黄金文化を支えたのも気仙地方の金とされている。岩手県陸前高田市内に数多くの鉱山遺跡が残されており、市史などによると、古代から気仙川流域で砂金採取が行われていたとされている。ヤマトタケル伝承によれば、ヤマトタケルは甲斐国・酒折宮の地で、警護に当たっていたと思われる鞞部を、大伴連の遠祖である武日に賜った。その鞞部を統率する大伴氏（「鞞大伴連」）は、東北地方の軍事的要地・白河郡と黒川郡の郡領として任務につき、配下に弓矢に長じた鞞部を軍団兵士として組織していた。この「鞞大伴連」など古代の武人があこがれたのが、北方世界に生息するオオワシの羽であった。オオワシの羽は矢羽根としては最高級であり、北方交易によってのみ入手できる貴重なものであった。気仙地方では、金・鉄・漆などと、北方のアザラシなど海獣皮・オオワシの羽などを交換して入手し、中央に献上していたと考えられる。「鞞大伴連」に代表される大伴氏が、そのオオワシの羽や金などを求めて気仙地方の中核・広田湾の港に入り活動したことから、その地に遠祖・大伴武日長者伝承が生み出されることになったのではないかと見通した。

(3) 【中世史分野】 海道地域の調査・分析について：中世相馬氏関係の文献史料を集成し、また新出の「海東家文書」の翻刻を行うことにより、当該地域に関する文献史料の基礎的なデータベースを作成することができた。

多賀国府・塩釜・松島の国府圏の調査・分析について：a) 松島高城地域に関する地域史研究を進め、拠点城館である館山館の規模・構造を確認することができた。また、深山館跡（利府町）、大日山館跡・城内山城跡（松島町）について、はじめて精度の高い縄張り図を作成した。あわせて近世の地誌類や地図・絵図資料を検討し、往古の地形や道筋、村や町・宿の分布などを復元することができた。b) 本共同研究の前から実施していた松島町渡島の海底板碑群の現地調査を終え、収集資料の調書作成を進めた。その結果、3,528点におよぶ板碑の破片・完形の板碑を海中より採集することができ、中世雄島の歴史的な景観と信仰のあり方について復元することができた（成果の一部を東北学院大学博物館において展示した）。c) 南北朝時代、南朝方陸奥国司・鎮守府將軍として活動した北畠顕家・顕信兄弟の発給文書を集成し、当該期南朝方の政治動向に関する基本データを提示することができた。

本吉地域の調査・分析：南三陸町の檀の上板碑群と田沢板碑群について、はじめて本格的な調査を行い、一点ごとの調書を作成することができた。

(4) 【近世史分野】 近世気仙郡・本吉郡地域における古文書の調査：郷土史研究者所蔵の古文書・解読原稿の撮影を進め、31,033コマの資料情報を撮影するとともに、旧気仙郡の文書群143件分の情報を得ることができた。このうち所在調査を行ったところ、13件は東日本大震災の津波被害により消滅したことが確認された。また、赤崎地区の個人所蔵古文書群289点を翻刻し、江戸時代に廻船業を営んでいた同家の商業活動や赤崎村における肝入としての活動について明らかにすることができた。また、岩手県大船渡市猪川町「鈴木家文書」・綾里「千田喜久兵衛家文書」・日頃市町「長安寺文書」、住田町根岸「吉田家文書」、気仙沼市唐桑「鈴木伸太郎家文書」の調査と分析を進めた。その結果、「鈴木家文書」から安永2年（1773）の気仙郡における疫病流行に関する史料を発見した。それによるとこの年、気仙郡では疫病により3000人が死亡し、鈴木家が盛六か村（猪川村、大船渡村、赤崎村、立根村、田茂山村、日頃市村）の窮民に米穀・金銭を施行したことにより、仙台藩の郡奉行から褒賞されていたことが確認された。この時の伝染病の病名は不明だが熱性伝染病とみられ、江戸で発生し上方まで流行していたものである。気仙郡から伊勢参詣に出かけた十人が罹患し、そのうち三人が現地で死亡、残りは「半死半生」で帰郷したものの、それにより近在に感染が拡大した。気仙郡での感染者は1万3000人を越え、3000人近くが死亡したが、地元や藩の対応などについて関連史料を見出すことができた。

伊達政宗による三陸沿岸港の調査に関する考察：伊達政宗は伊達領でのメキシコ貿易を実現するために、入港可能な三陸沿岸の港の調査をスペイン人大使ビスカイノに認めた。その結果ビスカイノはいくつかの候補地を発見し、これにもとづき伊達政宗は、1613年、支倉常長を大使とする使節をスペイン国王とローマ教皇のもとに送り貿易許可を求めた。しかし、当時の徳川幕府は禁教令を諸大名にまで実施させようとしていたため、この使節派遣が幕府の禁教政策や

貿易政策とどのような関係があったのか、国の内外の史料を用いて検討した。その結果、1610年、伊達政宗は江戸においてハセント神父に伊達領での教会用地の提供を申し出ていたこと、ビスカイノが1611年に徳川家康から沿岸調査の許可を得るとすぐに政宗のもとへ向かったこと、この時に政宗は造船のための材木の準備をしていたことなどを考察することにより、政宗は1610年よりも早い段階にメキシコとの通商関係を開く構想をいただいていたことが判明した。また政宗が造船した黒船（サン・ファン・ヴァウテスタ号）に幕府役人も乗り込み、家康と將軍秀忠のメキシコ副王宛親書も届けられたことから、政宗は伊達領での布教許可を条件に貿易交渉に臨んだことが理解できた。いわば伊達領を「布教特区」とする提案であり、それにより幕府領での禁教令と抵触することなく貿易が可能になること、伊達領から江戸湾にスペイン船を回航させることにより、幕府も貿易の利権にあずかることが可能になること、などの諸点が解釈できるのであり、これによって、なぜ家康が禁教令下にもかかわらず遣欧使節の派遣を認めたのかを整合的に説明できるようになった。

(5) 【研究成果の地域還元】 2018年2月18日、大船渡市市民交流会館において市民向け研究成果報告会「歴史・考古学から気仙地域の魅力を語る」を開催した。約100人の参加者を得た。

2019年2月24日、気仙沼市中央公民館において市民向け成果報告会「歴史学・考古学から気仙・本吉地域の魅力を語る」を開催した。約80人の参加者を得た。

2020年3月20日、陸前高田市シンガポールホールにおいて市民向け成果報告会「石碑から考える三陸の歴史と文化 その魅力」の開催を準備した。しかし、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、中止とせざるを得なかった。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計27件（うち査読付論文 3件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 石川日出志	4. 巻 -
2. 論文標題 「弥生時代 東日本」	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 日本考古学協会編『日本考古学・最前線』雄山閣出版	6. 最初と最後の頁 51 - 60
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 石川日出志	4. 巻 -
2. 論文標題 「東日本における山草荷遺跡の位置付け」	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 『山草荷遺跡出土の弥生土器 新発田市指定有形文化財（考古資料）』新潟県新発田市教育委員会	6. 最初と最後の頁 40 - 47
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 佐藤信	4. 巻 25
2. 論文標題 「古代相模国と地方官衙」	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 『考古論叢神奈河』神奈川県考古学会	6. 最初と最後の頁 1 - 12
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 平川南	4. 巻 -
2. 論文標題 「東アジアの中での上野三碑」	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 『上野三碑ユネスコ「世界の記憶」登録記録集』	6. 最初と最後の頁 176 - 179
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 平川南	4. 巻 -
2. 論文標題 「博物館の役割と機能」	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 『二訂 生涯学習概論』ぎょうせい	6. 最初と最後の頁 148 - 155
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 平川新	4. 巻 28
2. 論文標題 「慶長遣欧使節の目的をスペインとの軍事同盟とする説について」	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 『市史せんだい』	6. 最初と最後の頁 3 - 24
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 平川新	4. 巻 815
2. 論文標題 「スペインとポルトガルの日本征服論をめぐって」	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 『歴史評論』	6. 最初と最後の頁 70 - 87
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 竹井英文	4. 巻 50
2. 論文標題 「中近世移行期利府地域史の研究」	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 『東北学院大学東北文化研究所紀要』	6. 最初と最後の頁 25 - 56
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 竹井英文	4. 巻 59
2. 論文標題 「南北朝期東北地方の城館関係史料集成」	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 『東北学院大学論集 歴史と文化』	6. 最初と最後の頁 49 - 83
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 七海雅人	4. 巻 19
2. 論文標題 中世本吉・気仙地域の論点 歴史学の立場から (覚書)	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 『宮城考古学』宮城県考古学会	6. 最初と最後の頁 33 ~ 39
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 七海雅人	4. 巻 -
2. 論文標題 武士の政権の成立と岩沼の周辺	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 『岩沼市史 1 通史編 原始・古代・中世』岩沼市	6. 最初と最後の頁 274 ~ 315
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 石川日出志	4. 巻 -
2. 論文標題 東日本における山草荷遺跡の位置付け	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 『山草荷遺跡出土の弥生土器 新発田市指定有形文化財(考古資料)』新発田市教育委員会	6. 最初と最後の頁 40 ~ 47
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 佐藤信	4. 巻 -
2. 論文標題 古代東国の地方官衙と寺院をめぐる課題	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 『古代東国の地方官衙と寺院』山川出版社	6. 最初と最後の頁 1～7
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 佐藤信	4. 巻 -
2. 論文標題 地方官衙遺跡と地方豪族	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 『古代史講義 邪馬台国から平安時代まで』筑摩書房	6. 最初と最後の頁 123～144
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 佐藤信	4. 巻 -
2. 論文標題 稲荷山古墳出土鉄剣銘と武蔵国の古代史	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 『史跡埼玉古墳群総括報告書』埼玉県教育委員会	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 佐藤信	4. 巻 707
2. 論文標題 沖ノ島祭祀遺跡の歴史的意義	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 『考古学ジャーナル』	6. 最初と最後の頁 1～1
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 佐藤信	4. 巻 -
2. 論文標題 水中遺跡の歴史学	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 『水中遺跡の歴史学』山川出版社	6. 最初と最後の頁 3～10
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 平川新	4. 巻 60
2. 論文標題 未来へ伝える文化財防災	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 『文化財保存修復学会誌』	6. 最初と最後の頁 47～61
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 平川新	4. 巻 2017年4月
2. 論文標題 震災から6年の歩み	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 『月刊 第三文明』	6. 最初と最後の頁 60～67
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 平川新	4. 巻 -
2. 論文標題 災害と人類の歴史	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 『地域から考える世界史 - 歴史教育の新潮流』	6. 最初と最後の頁 27～41
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 平川新	4. 巻 -
2. 論文標題 熊本地震を考える	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 『平成28年度文化財防災ネットワーク推進事業 九州国立博物館の取り組み』九州国立博物館	6. 最初と最後の頁 105～112
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 平川南	4. 巻 25
2. 論文標題 日本海交流と古代出雲	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 『しまねの古代文化』鳥根県古代文化センター	6. 最初と最後の頁 2～13
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 平川南	4. 巻 836
2. 論文標題 自治体史で得たこと 望むこと	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 『日本歴史』	6. 最初と最後の頁 2～8
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 竹井英文	4. 巻 49
2. 論文標題 史料紹介 石川県立図書館所蔵「山崎家土軍功書」	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 『東北学院大学東北文化研究所紀要』	6. 最初と最後の頁 31～51
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 竹井英文	4. 巻 56
2. 論文標題 東北地方における中世城館関係史料集成 青森県・岩手県編	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 『東北学院大学論集 歴史と文化』	6. 最初と最後の頁 1～50
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 八木光則	4. 巻 -
2. 論文標題 アイヌ語系地名と蝦夷	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 『古代国家と北方世界』同成社	6. 最初と最後の頁 243～262
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 田中則和	4. 巻 49
2. 論文標題 南三陸町壇の上板碑群 室町期の「万法一如」偈板碑	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 『東北学院大学東北文化研究所紀要』	6. 最初と最後の頁 81～109
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計31件 (うち招待講演 17件 / うち国際学会 0件)

1. 発表者名 七海雅人
2. 発表標題 「鎌倉・南北朝時代の名取郡」
3. 学会等名 東北中世史研究会シンポジウム「中世の岩沼市域」
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 七海雅人
2. 発表標題 「平泉藤原氏と阿武隈川下流域」
3. 学会等名 山元町ふるさと歴史学習会（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 七海雅人
2. 発表標題 「『更地の向こう側 解散する集落「宿」の記憶地図』の紹介」
3. 学会等名 科研費市民向け報告会『歴史・考古学から元吉・気仙地域の魅力を語る』（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 石川日出志
2. 発表標題 「三陸の考古学 縄文から弥生へ」
3. 学会等名 科研費市民向け報告会『歴史・考古学から元吉・気仙地域の魅力を語る』
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 佐藤信
2. 発表標題 「古代東国の地方官衙と豪族」
3. 学会等名 茨城県教育財団主催「埋蔵文化財講演会」
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 平川南
2. 発表標題 「新発見 山梨県甲州市ケカチ遺跡「和歌刻書土器」の歴史的意義」
3. 学会等名 奈良女子大学古代学・聖地学研究センター「第14回若手研究者支援プログラム」(招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 平川南
2. 発表標題 「大伴氏と気仙地方 黄金と矢羽根を求めて 甲斐国一宮浅間神社蔵「古屋家家譜」から 」
3. 学会等名 科研費市民向け報告会『歴史・考古学から元吉・気仙地域の魅力を語る』
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 平川新
2. 発表標題 「文化財としての古文書、アーカイブズとしての歴史資料」
3. 学会等名 日本学術会議公開シンポジウム「震災・復興資料の収集・アーカイブズ化の現状と今後の課題」(招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 平川新
2. 発表標題 「被災地の研究者：東日本大震災発生後の取り組み」
3. 学会等名 日本心理学会第82回大会 大会企画シンポジウム(招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 平川新
2. 発表標題 「キリスト教の伝来と日本」
3. 学会等名 日本キリスト者医科連盟大会（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 平川新
2. 発表標題 「政宗が生きた時代の日本と世界」
3. 学会等名 （公財）農村文化研究所 地域歴史民俗学講座（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 平川新
2. 発表標題 「歴史研究から災害を考える」
3. 学会等名 日本工学アカデミー東北・北海道支部大会（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 蝦名裕一
2. 発表標題 「旧本吉郡に残る災害伝承」
3. 学会等名 科研費市民向け報告会『歴史・考古学から元吉・気仙地域の魅力を語る』
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 竹井英文
2. 発表標題 「南北朝期の城館と奥羽」
3. 学会等名 平成30年度伊達市歴史文化講演会 南北朝・室町期の城館と北畠氏（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 竹井英文
2. 発表標題 「魅力あふれる東北の中近世城館」
3. 学会等名 岩手県立埋蔵文化財センター平成30年度埋蔵文化財公開講座（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 竹井英文
2. 発表標題 「群雄激突！永禄12年（1569）の世界」
3. 学会等名 平成30年度伊豆の国市文化財シンポジウム「武田信玄襲来！！」（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 七海雅人
2. 発表標題 中世巨理郡の世界
3. 学会等名 山元町ふるさと歴史学習会（邑史会）（宮城県山元町中央公民館）（招待講演）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 蝦名裕一
2. 発表標題 旧気仙郡の古文書調査 3.11以後の所在調査・保全活動から
3. 学会等名 市民向け報告会「歴史・考古学から気仙地域の魅力を語る」(大船渡市カメラホール)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 佐藤信
2. 発表標題 古代出雲の神話からみた交流と諏訪
3. 学会等名 第22回縄文文化講座(茅野市マリオロイヤル会館)(招待講演)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 佐藤信
2. 発表標題 古代東北太平洋岸の交通と遠距離交流(趣旨説明)
3. 学会等名 科研費「東北太平洋沿岸地域の歴史学・考古学的総合研究」研究集会(東北学院大学ホーイ記念館)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 佐藤信
2. 発表標題 久留倍官衙遺跡と古代の地方官衙
3. 学会等名 平成29年度久留倍官衙遺跡シンポジウム(四日市市文化会館)(招待講演)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 佐藤信
2. 発表標題 古代日本と宗像・沖ノ島
3. 学会等名 「神宿る島」宗像・沖ノ島と関連遺産群世界遺産登録記念シンポジウム（龍谷大学響都ホール）（招待講演）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 八木光則
2. 発表標題 北方交易研究の諸課題
3. 学会等名 科研費「東北太平洋沿岸地域の歴史学・考古学的総合研究」研究集会（東北学院大学ホーイ記念館）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 八木光則
2. 発表標題 北上盆地の古代村落
3. 学会等名 花巻北上地区埋蔵文化財担当学会議（花巻市総合文化財センター）（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 竹井英文
2. 発表標題 知られざる東北の戦国期城郭 宮城県域を中心に
3. 学会等名 日本城郭史学会（板橋区グリーンカレッジホール）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 竹井英文
2. 発表標題 城郭関係史料から小田原北条氏を考える
3. 学会等名 「シンポジウム小田原北条氏の絆（小田原市民会館）（招待講演）」
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 高橋憲太郎
2. 発表標題 岩手県内の古代貝塚
3. 学会等名 市民向け報告会「歴史・考古学から気仙地域の魅力を語る」（大船渡市カメラホール）」
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 永田英明
2. 発表標題 古代蝦夷と「海の道」
3. 学会等名 市民向け報告会「歴史・考古学から気仙地域の魅力を語る」（大船渡市カメラホール）」
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 高橋和孝
2. 発表標題 閉伊氏について
3. 学会等名 市民向け報告会「歴史・考古学から気仙地域の魅力を語る」（大船渡市カメラホール）」
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 樋口知志
2. 発表標題 古代蝦夷社会と遠距離交流
3. 学会等名 科研費「東北太平洋沿岸地域の歴史学・考古学的総合研究」研究集会（東北学院大学ホーイ記念館）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 及川司
2. 発表標題 平泉における遠距離交易
3. 学会等名 科研費「東北太平洋沿岸地域の歴史学・考古学的総合研究」研究集会（東北学院大学ホーイ記念館）
4. 発表年 2017年

〔図書〕 計8件

1. 著者名 佐藤信	4. 発行年 2019年
2. 出版社 吉川弘文館	5. 総ページ数 256
3. 書名 『日本古代の歴史 6 列島の古代』	

1. 著者名 佐藤信編	4. 発行年 2019年
2. 出版社 筑摩書房	5. 総ページ数 276
3. 書名 『古代史講義 戦乱篇』	

1. 著者名 平川新	4. 発行年 2018年
2. 出版社 中央公論新社	5. 総ページ数 290
3. 書名 『戦国日本と大航海時代』	

1. 著者名 佐藤信（編著）	4. 発行年 2017年
2. 出版社 筑摩書房	5. 総ページ数 286
3. 書名 古代史講義 邪馬台国から平安時代まで	

1. 著者名 佐藤信・近藤成一（編著）	4. 発行年 2017年
2. 出版社 放送大学教育振興会	5. 総ページ数 283
3. 書名 日本の古代中世	

1. 著者名 佐藤信（編著）	4. 発行年 2017年
2. 出版社 山川出版社	5. 総ページ数 249
3. 書名 古代東国の地方官衙と寺院	

1. 著者名 佐藤信（編著）	4. 発行年 2018年
2. 出版社 山川出版社	5. 総ページ数 246
3. 書名 水中遺跡の歴史学	

1. 著者名 竹井英文（編著）	4. 発行年 2017年
2. 出版社 戎光祥出版	5. 総ページ数 420
3. 書名 シリーズ織豊大名の研究6 最上義光	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	石川 日出志 (ISHIKAWA Hideshi) (40159702)	明治大学・文学部・専任教授 (32682)	
研究分担者	蝦名 裕一 (EBINA Yuichi) (70585869)	東北大学・災害科学国際研究所・准教授 (11301)	
研究分担者	佐藤 信 (SATO Makoto) (80132744)	東京大学・大学院人文社会系研究科(文学部)・准研究員 (12601)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	平川 新 (HIRAKAWA Arata) (90142900)	宮城学院女子大学・一般教育部・学長 (31307)	
研究分担者	平川 南 (HIRAKAWA Minami) (90156654)	大学共同利用機関法人 人間文化研究機構本部・大学共同利用機関等の部局等・機構長 (82651)	